

道の駅草津リノベーション構想策定懇話会

第2回 策定懇話会資料

令和3年10月29日（金）

- 1.道の駅草津リノベーション構想における整備コンセプト…… 1
- 2.道の駅草津リノベーションのゾーニング案…………… 2
- 3.リノベーション実現に向けた取組
 - ＜STEP1＞入込客数の回復と経営の安定化
 - ①駐車場の拡大…………… 3
 - ②グリーンプラザからすまの施設改修…………… 4
 - ③安定した収益の実現に向けたソフトな取組…………… 5

【本日御議論いただきたい事項】

- 道の駅草津リノベーションの整備コンセプトの共有
- ＜STEP1＞に係る具体案の検討

<上位計画における位置づけ>

▶ 第6次草津市総合計画

- 基本構想における「将来のまちの構造」において、「観光レクリエーション拠点」として位置づけ
⇒ 恵まれた自然や観光施設が集積した地域特性を活かし、憩いや安らぎを提供するとともに、幅広い人々の交流を促進

▶ 草津市都市計画マスタープラン（次期計画策定に向け審議中）

- 将来都市構造において、「湖辺にぎわい創出区域」「交流創出核」として位置付け
⇒ 「湖辺にぎわい創出区域」
自然資源や未利用地を活かし、地域活性を図ることができるよう、湖辺のにぎわい創出に寄与する土地利用の推進
⇒ 「交流創出核」
恵まれた資源・景観を活かし、市民や本市を訪れる方のにぎわいと“健幸”に満ちた多様な余暇の活動を通じた交流を創出する核の形成

▶ 第2次草津市農業振興計画（次期計画策定に向け審議中）

- 基本理念である「未来につなぐ草津の『農業』『農』がうるおす健幸なまち」の実現に向けて、3つの基本方針が示されている
- 基本方針3 『農』を通じたつながりの拡大において、「農業振興拠点施設の機能の拡充」を位置づけ
⇒ 市民の「農」に対する意識の醸成を図りながら、環境と調和した豊かな市民生活を創造

<条例や他の農業振興施設からみた道の駅に求められる役割>

▶ 道の駅草津に求められる役割

- 「グリーンプラザからすま設置条例」に基づく事業の充実により、都市住民との交流を基盤とした、更なる農業振興を図る
- 立地条件を活かした観光機能の充実や、新たな付加価値の創出



市内だけでなく市外・県外の観光客にとって『魅力』的な農業振興施設



草津市の農業振興に寄与

<第1回懇話会での主な意見>

▶ 第1回道の駅草津リノベーション構想策定懇話会での主な意見要旨

- リノベーションした時にお客様は入るが、2～3年すると減少する傾向になると思うので、5～10年先を見据えたビジョンが必要
- 中途半端なリノベーションをするのではなく、グリーンプラザからすまの増築を視野に入れるなど、施設の充実化が必要→未永く、当初の目的である農業振興の拠点の実現に向け、市民に愛される施設として発信していきたい
- 他の農業振興施設と道の駅草津とのすみ分けについて整理し、相乗効果が発揮できる施設とするべき
- 「ここに来ればこれがある。」といった特産品やオリジナル商品をつくるべき

▶ 道の駅草津リノベーション構想

整備コンセプト：農業振興の拠点としてすべての人に愛され続ける道の駅
～にぎわいの創出による一体的な地方創生拠点の形成～

- 湖辺地域の優良農地等を活用した米づくりや都市近郊の立地を活かした施設野菜産地など、市内の豊かな農業資源や、県立琵琶湖博物館や市立水生植物公園みずの森などの観光施設が集積しているといった立地性を活かし、農業者や消費者、道の駅草津利用者等にとって魅力ある施設の実現に向けたソフト面・ハード面の機能向上をとおして、本来の設置目的である「農業振興」を図るとともに、当施設がこの先もすべての人々に愛され続けるような地方創生の拠点形成を図る。

道の駅リノベーションの実現に向けた概略スケジュール

実現に向け短期・長期的に取り組む

▶ <STEP 1> 入込客数の回復と経営の安定化

目標：入込客数をピーク時の水準まで増加させ、安定した収益を持続させる。

- 取組：①琵琶湖敷地等の未利用地を活用し、動線を考慮した駐車場の拡大
②隣接するロックベイガーデンとの機能すみ分けや連携を考慮したグリーンプラザからすまの施設改修
③マーケットインに基づく販売戦略の実現や、農業者が出荷しやすい体制づくり、オリジナル商品の検討・開発など、安定した収益の実現に向けたソフトな取組

▶ <STEP 2> 農業振興拠点としての魅力向上

目標：市内・外に発信していく農業振興拠点となるような魅力向上に取り組む。

- 取組：①地域資源を活用したオリジナル商品の展開・定着など、魅力向上のための強みや特徴の強化
②自立的な運営を前提とし、競争原理を働かせる指定管理者制度の導入
③ふれあい広場を活用し、新たな付加価値の創出に向けた新たな施策の取組
④民間活力の導入など、更なる魅力向上に向けた連携強化

▶ <STEP 3> 誘客促進に向けた更なる発展

目標：全国的なモデルとして、すべての人に愛される道の駅を実現させる。

- 取組：①敷地拡大を視野に入れた道の駅の拡大、増設
②農業生産基盤の整備と併せた高収益作物等の産地形成や農とのふれあいの場の創出による地域全体の価値向上

